



第630号
 「島のひろば」編集委員会
 電話 04992-2-8256
 Eメール jcpshima@yahoo.co.jp
 www.3.plala.or.jp/jcpshima/
 (検索サイトからは「大島町議団」)
 くらしの相談は共産党町議団へ
 山田2-3670 橋本2-3614 小池2-9318

大島町、新型コロナによる 来島自粛呼びかけで打撃を 受けた事業者に支援金交付

5.28臨時議会で補正予算を全員一致で可決



小池議員



橋本議員



山田議員

臨時会報告
町の支援策特集
 共産党町議団
 5月28日に第一回大島町議会臨時会が開かれました。町長は、この臨時会に、新型コロナウイルスの感染拡大による来島自粛の「喚起措置」を実施したことに伴う収入減少事業者へ支援金を交付するための予算を計上した「補正予算案」を提案、全員一致で可決しました。

共産党町議団は「自粛と補償は一体」の立場から、国の臨時交付金などを有効活用し、甚大な打撃を受けている業者・農家などへの支援を含め、新型コロナ対策の強化を4次にわたって町に申し入れてきました。今回の予算案については、不十分どころもありますが、「第一弾」と位置づけ賛成しました。町は、「今後の方策は国の第二次補正予算、都の動向、町の社会環境などを考慮把握し決定する」としていますので、今後とも皆さんの声を町の支援策に反映させるため努力する決意です。

新型コロナ感染拡大防止のための町の「事業者支援金制度」紹介

(制度内容は町の「交付要綱」による)

1 支援金の交付対象者は

- ①大島町内にある事業所がある中小企業（中小企業基本法規定業者）と個人事業主。
- ②大島町が来島自粛を喚起する措置を実施する前（本年4月8日以前）から、次の許認可等を取得して、運営していること。
 - ア 宿泊業者（ホテル、旅館又は簡易宿泊所）
 - イ その他の事業者（飲食業、販売業、製造業、レンタル業、観光ガイド等）

2 支援金の額はいくら

業種	事業規模	限度額	その他
ア 宿泊事業者	収容人数40人以上	70万円 (20万円)	1事業所につき
	収容人数39人以下	50万円 (15万円)	1事業所につき
イ その他事業者	中小企業	30万円 (10万円)	1事業所につき
	個人事業主	30万円 (10万円)	1事業所につき

(注)
 1、支援金の交付額は、減少額と限度額のいずれか低い額とする。
 2、都の「協力金」受給事業者は、その受給額を控除した額を減少額として、限度額は左表の()書きの金額とする。
 3、交付額は千円未満を切り捨て。

(二面につづく)

その他主な支援策

町税・社会保険料の減免等

①収入が前の年より20%以上の町税の徴収を猶予(担保不要・延滞税なし)

②町税減免は既存の制度で対応。(対象基準は生活保護基準年額以下など)

③収入が前の年より30%以上減の国保税、介護保険料、後期高齢者医療保険の減免。(対象基準は町税に同じ)

学校休業にともなう支援

7, 8月分の給食費を免除。
(夏休みは8/1~8/19とのこと)

農漁業者への支援

①花卉等の販売不振へ支援。(出荷輸送費3ヶ月間)

②鮮魚売価の低下等への支援。(出荷輸送費3ヶ月間、漁協電気代3ヶ月間)

(交付額算定例)

ケース1 その他事業者で東京都感染拡大防止協力金の受給は無い

	前年売上	今年売上	比較
4月	30万円	24万円	△6万円(△20%)
5月	30万円	33万円	+3万円(+10%)
6月	30万円	18万円	△12万円(△40%)

→30%以上の減少月があるので交付対象となる

対象期間の減少額を合算する(増加額は含めない)

6万円 + 12万円 = 18万円

減少額18万円 < 限度額30万円 なので、交付額は18万円となる

ケース2 その他事業者で東京都感染拡大防止協力金の受給がある(50万円)

	前年売上	今年売上	比較
4月	30万円	9万円	△21万円(△70%)
5月	30万円	6万円	△24万円(△80%)
6月	30万円	12万円	△18万円(△60%)

→21万円+24万円+18万円=63万円 から、協力金50万円を控除する

63万円 - 50万円 = 13万円

減少額13万円 > 限度額10万円 なので、交付額は10万円となる

3 申請に必要な書類は

- 1、交付申請書(町にある)
- 2、事業収入(売上)が減少したことを証明できる(写し)、確定申告書(写し)等
- 3、納税証明書
- 4、東京都感染拡大防止協力金の交付決定通知書又は申請書(写し)

*問合せは党議員団に。詳しくは町のホームページにも掲載。具体的な手続き等は役場にお問い合わせを

大島文学・紀行散策

拾遺編

小島英熙 ひでひろ

「一刀斎を追い大島へ」

七

500

時得孝良

白井潮路さん説は、弥五郎が着いたのは、伊東の無人島手石島で、そこから山越えをして三島に行ったと言う。



所は伊豆大島。両氏の父を持つ伊藤弥五郎は14歳。毎朝孟宗竹林で竹一本ずつ山刀で切り、父に切り口を見せるのが義務。

は強引だろうか。≪
どこまでも筋を通す剣風が、この流儀を貫くように思われるが、それを一刀斎の生い立ちに結びつけるのは強引だろうか。≫

た。
(以下次号)

小野次郎右衛門にしても、將軍家指南役にはなつたけれど、追従のない反骨ぶりで將軍に敬遠されている。

まず、名久井龍岳の「伊藤一刀斎」という青少年読み物風の作品から抜き紹介しよう。1950年12月に創刊された雑誌「新しい知性」に連載されたもので、挿絵は著名な彫刻家・画家の石井鶴三が担当した。

「一刀斎には、生涯、主取り(新しく主人に仕えること。時得)もせず、一兵法者として完成をめざした求道的な色彩が濃厚である。弟子の小野次郎右衛門にしても、將軍家指南役にはなつたけれど、追従のない反骨ぶりで將軍に敬遠されている。

さて、弥五郎が岡田のアフゴウでどんな少年時代を過ごしたのか、小説家や評論家が「想像して書いた」作品が数点あるので、横道に入るがその中から二点ほど紹介したいと思う。